

奥只見・柳沢右岸尾根より片貝山

小沼 充範

■山行年月日:平成30年10月13日

■メンバー:小沼充範(単独)

10月12日～14日で片貝沢をベースに大殺山を越えて小屋場沢の上流部を楽しもうと考えていた。しかし、12日は雨が降り、金曜日の午後の天気予報で14日は曇りと雨となっている。よって13日、日帰りで片貝池の西にある片貝山へ登ることにした。先月山溪を立ち読みすると、会津と越後の細かいところをトレースしている町田有恒さんの写真が載っており、その写真は片貝山頂で写されたもので、背景には白石スラブが映っている。こんな奥只見の細かい山にも登っているのだと感心し、そのときから片貝山が気になっていた。

12日の夜、御池を越えて赤岩高山への登り口となる広場で車中泊する。御池の駐車場の工事に伴い、10月19日以降、御池から先は通行止めになるようだ。車がたくさん止まっている平ヶ岳の駐車場を過ぎ大津岐林道へむかう。大津岐林道は発電所の工事をおこなっており、通過する時間に注意が必要である。朽ちた小屋の入口に車を止め、一の沢林道のゲート7時15分出発。一の沢を渡り、ブナ林の中に微かな踏跡を見つけこれをたどる。途中から湖に下りて砂浜を歩き湖岸の岩場をトラバースする。柳沢8時10分着。湖の水位がかなり低かったら柳沢まで容易に来る

ことができるだろう。

目印に白テープを付けながらブナの生える柳沢右岸尾根を登る。今年は紅葉が遅いのか付近はまだ色づいていない。922mからは顕著な尾根となり明瞭な踏跡がある。前方ではカモシカではなくシカが鳴き叫ぶ。松の生える急な岩混じりの尾根を登ると奥只見湖が眼下に見え、観光船が浮かんでいる。越後荒沢岳、双耳峰の燧ヶ岳の姿もよく見える。1170m南側のピークにたどり着くと、紅葉で色づき始めた平左衛門山が目の前に見える。踏跡は不明瞭となりシャクナゲ等の藪が現れる。平左衛門山との分岐1170m10時着。片貝ノ池へ行くには、柳沢を遡行するよりも柳沢右岸尾根を登ったほうが近いように感じられた。1170m北側のピークの先は稜線を避け西側斜面のバンドを歩いて行く。

しだいに稜線は細くなり、藪が薄く歩きやすくなってくる。稜線には馬の背のような所も現れる。1130mの山頂はスラ

荒沢岳と片貝山





片貝山手前から見る貝の岩スラブ

ブの岩場となっており展望が良い。目の前に貝ノ岩スラブが広がり、眼下に片貝ノ池が見える。登ったルートは陰になって見えないが白石スラブが奥只見湖の対岸に見え、ビバークした入り江付近も確認できる。東に丸山岳～高幽山の山並が見え、奥只見ダムのダムサイト、村杉岳、毛猛山、未丈ヶ岳、越後荒沢岳、平ヶ岳を見渡すことができる。南西には岩の露出する片貝山が望めるようになる。

周囲の展望を楽しみながら稜線を進む。1095mの先も展望の良い稜線歩きが続き大きな枯れ木が目立つ。シャクナゲの多い鞍部では古い鈍目を見かける。岩の露出する灌木帯の中にある踏跡を登ると片貝山頂上である、12時15分着。

周囲の見飽きることのない展望に夢中になりながら登り、あっという間に山頂に着いてしまった感じだ。山頂は展望が良く、三等三角点を確認する。容易に登れない奥只見の静かな山頂でゆっくり休む。13時15分下山開始。往路を戻る。天気が下り坂なのだろうか。燧ヶ岳、越後荒沢岳など標



片貝山手前から見る奥只見湖

高の高い山々が雲に隠れていく。

15時20分1170mピークを通過し、16時50分柳沢にたどり着く。一ノ沢林道ゲート17時40分着。すっかり日が短くなり辺りは灯りがほしくなるほどの暗さである。日帰りではあったが奥只見の山を十分に満喫することのできる山行となった。14日は天気予報とは違って青空が広がる。せっかく天気が良いので伊南の鮎祭りに出かけ、震災以降おとずれていなかった黒谷川林道へ行くことにした。黒谷川には小幽沢の先に集中豪雨による凄まじい傷跡が今だに残っている。

片貝山手前から片貝沼、丸山岳、高幽山を見る



